

2024同済大学夏の中国語短期研修プログラム 参加者感想文集計

目 録

経済学部〇〇さん-----P1

文学部 H・T さん-----P4

農学部 三宅なつ穂さん-----P6

文学部〇〇さん-----P9



2024年同済大学 夏の短期中国語研修プログラム報告書

中国語の授業の様子

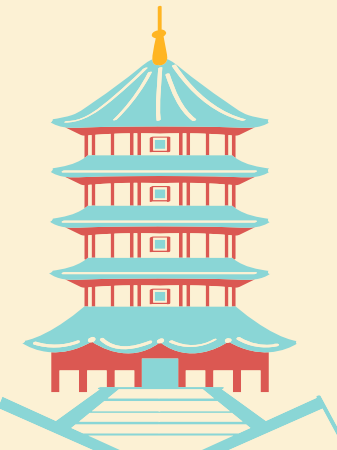
クラスは4つに別れていました。初めて中国語を習う人のためのクラスから、6年以上学んでいる人のためのクラスまでありました。

私はHSK5級を取得していたため、一番上のクラスに所属しましたが、周りの学生のレベルが高く、勉強になりました。授業のスタイルはクラスによって違いますが、第二外国語で受けている中国語のクラスのようなものでした。ただ、説明は英語か中国語で行われるので、語学力向上に大きく貢献すると思います。どのクラスにも共通していた宿題は、毎日、中国語で日記を書くことでした。負担は大きくなく、先生も添削をして手伝ってくれました。

研修に参加している学生の様子

今回は名古屋大学の他に、日本から他2つの大学、ドイツの大学の学生達が参加していました。クラスや課外活動で関わる機会が多く、友達になりやすかったです。

昼は学食で、皆で食べることも多かったです。参加者は1～2年の学生が多い印象でした。私は4年生で参加しましたが、同じく中国文化に興味を持つ方が多かったので、年齢関係なくすぐに仲良くなれました。また、研修には同済大学の学生ボランティアの方もいらっしゃったので、中国語や生活のことを助けてもらい、沢山お世話になりました。



その他のプログラムの様子

午前の中国語のクラス以外に、午後に課外活動が組み込まれていることがありました。博物館や美術館、観光名所の東方明珠などに訪れました。

自分たちだけでは中々行けないような場所も多かったので、とても貴重な機会でした。

特に黄浦江のナイトクルーズは上海の夜景を一望できて大満足でした！他にも魅力的で思い出に残る課外活動が沢山ありました。





2024年同济大学 夏の短期中国語研修プログラム報告書②

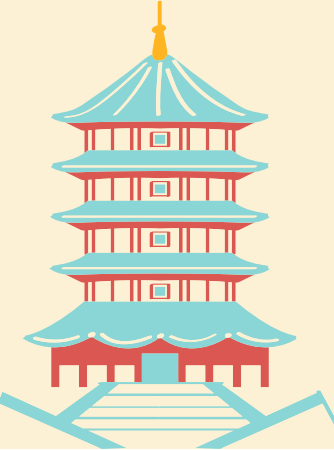
休日の様子

授業は完全に休みだったので自由に時間を使えました。上海ディズニーに行っている人もいましたし、高速鉄道を利用して杭州や蘇州に行く人もいました。高速鉄道を使うときには必ずパスポートがあるので、忘れないようご注意ください。また、荷物検査などにかかり時間がかかるので、早めに駅に着いている必要があります。観光地では学割が使える場所もありました。名大の学生証で大丈夫でしたので、持って行くと良いと思います。治安も良かったので、一人で自由に出歩くこともできました。

生活の様子

通信について、普段使用しているアプリを使いたかったので、SIMカードを事前に購入して行きました。ホテルにWi-Fiもありますが、繋いでいる間はLINE等は使えなくなります。SIMカードは15GBのものを購入しましたが、節約しながら使っていたので、2枚買うか、VPNを契約すれば良かったと感じました。

また、決済について、Alipayを主に使用していました。現金を使えるところも多かったですが、便利なのは電子決済でした。また、電子決済のみで受付しているサービスもありましたので、中国に行く前にクレカとAlipayを紐付けて使えるようにしておいた方が良く感じました。



研修全体の感想

2週間という短い期間でしたが、沢山の学びがありとても満足した研修でした。実際に行って、自分の目で見ないと分からないことが沢山あり、新たな気づきを得られました。また、現地の人々との交流を通して、語学力の向上に寄与したと同時に、もっと中国語を学びたいという、モチベーションの向上にも繋がりました。中国文化に興味がある人、学び始めた中国語を実際に使ってみたい方々に是非オススメしたい研修です。留学以外で2週間も海外で生活できる機会は中々なく、非常に貴重だと思うので、迷っている方はぜひ参加してみてください！





2024年同济大学 夏の短期中国語研修プログラム報告書③

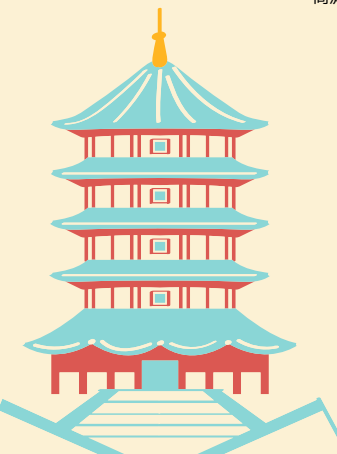
研修の様子（写真）



同济大学の様子



中国の食事の様子



課外活動・観光の様子



同済大学 研修実施報告書

研修に参加したきっかけ

1年の春学期から2年間中国語の授業を履修しましたが、自分の中国語のスキルには全く自信がありませんでした。しかし、せっかく2年間も学んだのだから、一度くらいは現地に行って中国語を使ってみたいと感じたのがこの研修に参加したきっかけです。参加が決定した後にも、中国語を本格的に勉強する時間を取ることが難しかったため、中国語のスキルには全く自信が無いまま中国に渡りました。

研修中に感じたこと

様々な不安を抱えて出国しましたが、いざ上海に到着すると、日本とは全く異なる新鮮な景色が広がっており、さらに同済大学の先生方やボランティアの方々も大変親切であったため、不安は吹き飛び、これからの生活への期待に胸が躍りました。同済大学での授業は、日本で受ける言語の授業とはその形式が全く異なりました。授業中では積極的に発言することが求められましたが、それが自然とできてしまうようなラフな雰囲気があったため、語学力に自信が無くとも自発的に発言することができました。

また、実際に上海で2週間生活してみて、それまでメディアなどで見聞きしてきた中国のイメージと実際の中国とは違いがあることが分かりました。上海の街はとても発展しており、その技術力の高さに何度も驚かされました。また、街で出会った人々

が、私たち日本人に対して親切に接してくれたことも印象に残っています。注文の仕方が分からず困っていると、店員だけでなく側にいたお客さんも注文の仕方を教えてくれるという場面には何度も遭遇しました。そのようなコミュニケーションを通して、中国語の表現や単語を新たに習得することもできました。

そして、自由時間に友人達と上海やその周辺を観光したこともとても思い出に残っています。数日だけの観光ではとても回れない程の多くの観光地に行くことができ、上海で知り合った人に上海の街を案内してもらうという貴重な体験をすることも出来ました。ともに同済大学に向かった名大生とは、そのほとんどが初対面という状況でしたが、2週間の研修を通して全員と仲を深めることができ、最高の思い出を共有することができました。

研修を終えて

2週間の研修を終えて帰国したとき、それまで感じたことのない充足感と達成感を覚えることができました。応募を迷っていたあの時、勇気を出して一步を踏み出して本当に良かったと感じています。

研修実施報告書

研修中の主な体験

- 中国語の授業（3時間×8回、HSK孝試2級受験、日記発表）
- 中国文化体験（水墨画、気功）
- 中国のご家庭訪問
- プログラムを通した上海観光（美術館、博物館、東方明珠、クルーズ）
- その他上海観光（豫園、田子坊、新天地、動物園、ディズニー、杭州）

研修を通して得たもの

1. 中国語を勉強するモチベーションの向上

今まで中国語の勉強は将来のためや大学の成績のためが主だったが、この研修を経て仲良くなった方々と自由に自分の言葉で話したいという目標ができ、中国語を勉強するモチベーションが向上した。同済大学での授業は名古屋大学ではまだ習っていない範囲だったが、日本に帰ってから復習をして理解することができた。そして2週間という短い研修の間に気づいたら読める漢字が増えたり聞き取れる文法が増えていて、特に中国の人と翻訳アプリを使いながらWeChatをしたことで、生きた中国語を知ることができた。滞在中、日本語で話しかけてくれる先生や店員がいた時は本当に嬉しかったので、日本にいる時にも中国の人と知り合う機会があれば積極的に中国語で話しかけてみようと思った。

2. 中国の今への理解

高校生の頃、中国の市場の映像を見てから興味を持ち、大学生になったら中国に行ってみたいと思っていたが、実際に中国に行ってみて、より興味が深まった。研修前、中国について知っていることは少なく、どんな研修になるのか不安もあったが、2週間滞在中で日本との共通点や相違点を知ることがで

きた。上海の高層ビルや、物価の安さやキャッシュレスの普及率などいくつも日本との違いを見つけて驚く点があった一方で、水墨画や茶など伝統文化は日本とよく似ていると感じた。また、想像していたよりも治安はよく、安全に研修を終えることができた。2週間の滞在中、上海の様々な観光地や博物館を地下鉄やタクシーを使って訪ねる中で、予想よりもより都市化している雰囲気と中華ドラマに出てくるような古典的な雰囲気のどちらもが共存している様子を肌で感じることができた。また、中国に暮らす人は、日本の身近に暮らす人と同じようにさまざまな人がいて、特に滞在中に知り合った人は困ったことがあるとすぐに助けてくれる優しい人ばかりだった。

3. さまざまな人との交流

まず、名古屋大学の一緒に行った7人と2週間生活を共にするなかで仲を深めることができた。学年や学部はさまざまだったが、一緒にたくさんの観光地に行くことができて楽しかったし、先輩方が流暢に現地の方と話す姿を見て、中国語を勉強する上でとても良い刺激になった。加えてドイツ人の学生と一緒に授業を受けたり、昼食を食べたりしたことを通して中国語だけでなく英語やドイツ語にも触れることができた。2週間という短い時間ではあったが、中国やドイツの学生生活や日常生活、そしてそれぞれが持つ日本への印象を知ることができた。

4. 最後に

授業をはじめとしたどのプログラムも興味深いもので、この研修を通して上海という街が大好きになった。今回さまざまな観光地やお店を訪れたが、日本に帰ってから友達や家族に紹介したいし、もう一度行きたいと思う場所ばかりだった。



豫園



外灘の高層ビル



火鍋



水墨画体験



夕飯



果物屋

研修実施報告書

文学部 2 年生

○研修での体験

今回の研修では、授業以外にもたくさんの観光地見学や体験活動などの時間が設けられており、充実した時間を過ごすことができました。研修のプログラムで東方明珠や博物館、自由時間に豫園や動物園などに行きましたが、私がいちばん印象に残っている活動は家庭訪問です。訪問先のご夫妻が最初に「中国の家庭の生活を体験してほしい」とおっしゃったとおり、普通の中国観光ではなかなかできないような経験をすることができました。市場での買い物に着いて行ったり、家庭料理を作っているところを間近で見たりと、それまでとは目線の異なる上海を体験して、非常に貴重な時間を過ごすことができました。また、ご縁があって翌日蘇州に観光に行った際も何かと気遣ってくださり、中国の人の温かさを感じられる体験でした。

○研修を通して得たもの

私は中国語が好きですが、自分が相手と中国語で会話しようとするとき非常に緊張してしまい、うまく聞き取れなかったり、考え込んでしまい発話に時間がかかったりしてしまう

ことがよくありました。そのため、今回この研修に参加した動機の一つは、短い期間ではありますが、中国語に囲まれた環境に身を置くことで、中国語での会話に対する緊張感を軽減したいということです。

授業は中国語で行われましたが、先生の発音はとてもはっきりしていて聞き取りやすかったです。また、和気あいあいとしたアットホームな雰囲気のカラスだったため、音読や例文作成など、自分の声を出す場面でも日本よりリラックスした気分で臨むことができました。授業中に他の学生さん（特にドイツの学生さんは毎回興味深い質問をしてくださいました）が質問したとき、その疑問をクラス全体で共有して一緒に考えるのも有意義な時間でした。

学校外では、食事や観光のために外出することが多かったです。初めのうちは、例えばご飯を食べに行った先で店員さんが何を言っているのか、繰り返してもらっても聞き取れず、何を言っているかわからず、うなづくだけのこともありました。しかし、日を追うごとに耳や口が慣れてきたのか、少しずつお店の人や街の人と短い話ができるようになりました。街で「日本人？」と声をかけてもらって、少しお話しした後、「中国語がなかなか上手だね」と言ってもらえたときはとても嬉しく、充実感がありました。街の人たちの中国語は先生のものほどは聞き取れず、勉強不足を痛感したこともたくさんありますが、生活にかかわる場面で中国語を使うことができたことはいい経験になりました。

2週間という短い期間では、なかなか発音や聞き取り力は実感できるほどには上達できま

せんが、肩の力を抜いて中国語を聞いたり口に出したりすることができるようになってい
る、と自覚できたことが今回の研修における最も大きな収穫です。授業や自由時間の経験
を通して、中国語に対して自信がつき、相手の発言を聞いて自分が何を言うか考えてから
口から出るまでの時間が短くなりました。今回中国語に対する心の壁を少し低くすること
がで
きたので、日本でも中国語とかかわる場面に積極的に参加し、今後もこの姿勢を忘れない
ように中国語学習に取り組んでいきたいです。